

4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

2005.4.24.-27.



道東 釧路・知床 釧網線に乗って まだ冬の中 丹頂鶴・知床の山



渡島半島・駒ヶ岳周辺で 早春の栗林・函館の鉄山・南茅部以北の縄文を訪ねて



千歳・小樽・余市へ 北の縄文「ストーンサークル」を訪ねて

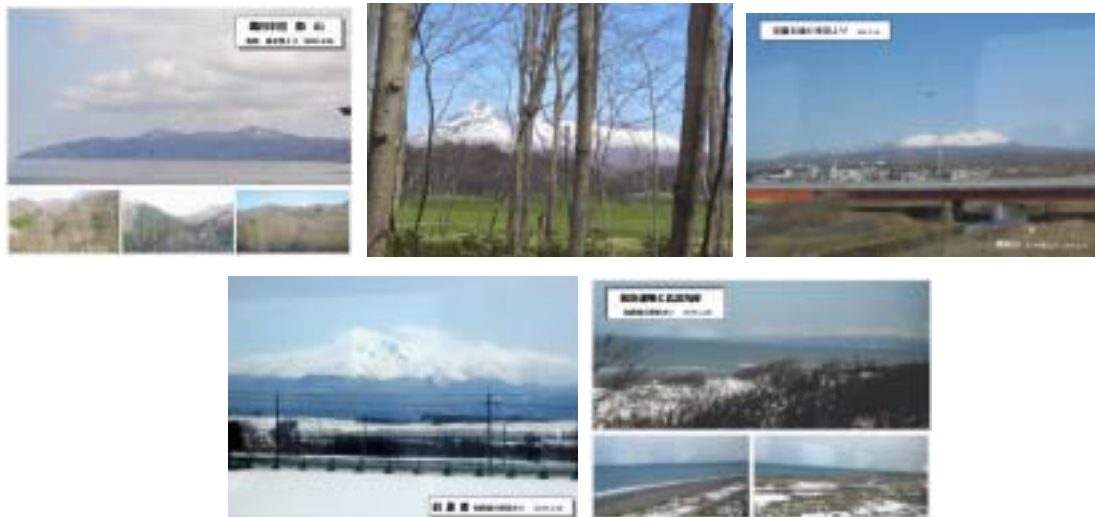
- | | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ | 2005.4.24. |
| 5.2. 一足早い早春の駒ヶ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」 | 2005.4.24. |
| 5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて | 2005.4.24. |
| 5.4. 「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて | 2005.4.24. |
| 5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて | 2005.4.25. |
| 5.6. 「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ | 2005.4.26.& 27. |
- 千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて
 - 小樽恋路・余市のストーンサークルを訪ねて
 - ブゴツペ洞窟 岩刻画

4月20日から、3月末に生まれた孫の顔を見に札幌へ 孫の顔を見た後は早春の北海道 Walk を楽しもうと。関西ではもう桜も終わって 山は新緑が始まっているのに、千歳空港に着くとみぞれが舞い 周辺は雪がいっぱい。今年は春の訪れが遅れているが、完全に雪の世界 冬の季節に逆戻りである。

二人目の孫であるが、うれしいものである。 家内が抱けというが、怖くて手が出ない。4 つになる上の孫娘がうれしそうに手馴れた仕草で誕生した弟を抱くのにはビックリ。

もう 先のほうへ 頭は行って 「元気に早くかけまわらんかなあ・・・」と。

家内はまだせっせと世話を焼いているが、こっちはもう 顔を見ると後は足手まとい。1 週間は完全フリーである。北海道 JR の均一周遊券を買って北海道の地図を広げ、天気予報を聞きながら 何処へ行こうかと。。。。



北海道の山々 南から北へ 恵山 駒ヶ岳 樽前山 斜里岳 知床海岸

札幌を起点に 南の函館 北の稚内 東の網走・釧路へ 東西南北夜行特急や早朝日帰特急があって何処へでも行ける。 どうも北の稚内方面は雪深く天候も悪く今回はあきらめる。

冬の北海道となれば、まだ見たことがない雪原を舞う鶴を見に行こう。そして 雪の狩勝峠に知床の雪山も見たい。もう一つは 雪が消えた渡島半島へ 来る前から頭にあった函館の地図にある「鉄山」の探訪と直ぐ近くの「北の縄文」南茅場へ。 また 縄文の掘立て柱などに使われた栗の巨樹 そんな巨樹の林が残る駒ヶ岳山麓森町の天然記念物の栗林群へ

そして札幌は野幌の開拓記念館へいって 「北海道のたたら」の疑問を確かめてこよう・・・と。

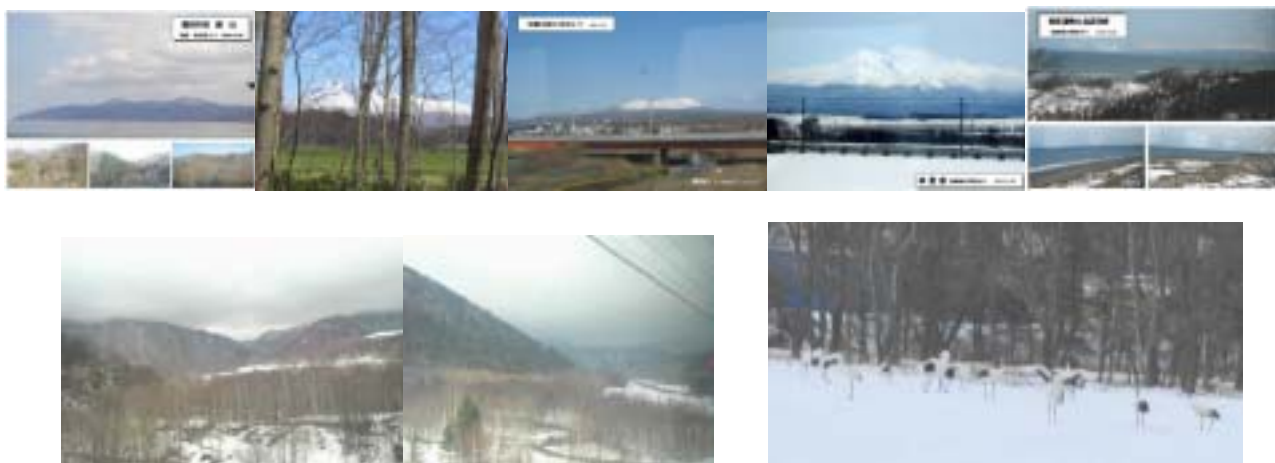
開拓記念館は「北海道の歴史民俗博物館」で ここの学芸員平川氏に「北の縄文のストーンサークルと土のサークル」が千歳と小樽ほかにあると教えてもらって そこへも出かけました。

夜行特急に乗ったり 早朝特急に乗ったりしながら一週間 東へ西へ車窓から見る景色も含めて冬と早春が交錯する北海道を楽しんできました。

雪原に舞う鶴の舞 本当に神秘的。 また、雪を戴いた北海道の山々の素晴らしい姿 北の縄文の林の中でそこを守る番兵のようにひっそりと咲く春の訪れ「福寿草」そして春の妖精「カタクリ」も印象的でした。 雪が消えて ライラックの春が一番とよく聞きますが、この残雪と春とが交錯する季節も本当に素晴らしい北海道でした。



ついでながら 札幌には野菜として花の咲いた「カタクリ」がスーパーで売られており、おしやしにして食べました。これもビックリでした。行き当たりばったりの北海道 風来坊の写真アルバムにまとめましたので ご覧ください。



- | | |
|--|-----------------|
| 5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ | 2005.4.24. |
| 5.2. 一足早い早春の駒ヶ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」 | 2005.4.24. |
| 5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて | 2005.4.24. |
| 5.4. 「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて | 2005.4.24. |
| 5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて | 2005.4.25. |
| 5.6. 「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ | 2005.4.26.& 27. |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて ● 小樽恋路・余市のストーンサークルを訪ねて ● ブゴツペ洞窟 岩刻画 | |

また 「北の縄文」については たたら遺跡探訪 で別途整理しています。



4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ



● 雪の狩勝峠から十勝平野へ

4月22日 早朝 札幌発釧路行の特急「おおぞら」に飛び乗り、狩勝峠を超えて帯広から釧路へ一度越えたかった雪の狩勝峠 札幌 千歳の平地から夕張の山岳地帯には雪がびっしり。

北海道一の鉄道の難所と言われた狩勝峠。鉄道地図を眺めながら一度は越えたかった場所に窓にはりついて眺めていました。今は根室線経由から千歳線経由に変わり、トマムからトンネルの中で根室線と合流して狩勝峠を超える。峠を越えると眼下に新得の街がみえ、ループを描きながら雪の山中を下ってゆく。

これが 狩勝峠のループか・・・

新得から さらに山を下って帯広へ。

十勝平野に入るとそのようにほとんど雪はなく、広大な野原が広がっている。



雪の狩勝峠 新得周辺



狩勝峠を越えて 大雪の山並みを眺めながら十勝平野へ

十勝平野を横切り、太平洋の海が見えてくると釧路は近い。真っ青だった空が、霧で覆われ、また平原が雪で覆われる。札幌から釧路まで約4時間 車窓から眺めた景色や気候のダイナミックな変化に北海道の広さを今更感じながら釧路の駅に立つ。午前11時近いものである。

● 釧路市丹頂鶴自然公園



釧路市街 2005.4.22.

観光案内所へ行って 「飛んでる丹頂鶴を見たい」と言うとみんな「もう時期が遅い。益してや、昨日 は大雪。 吹雪いて釧路湿原で過ごす鶴も難しい。」という。札幌のインターネットカフェで調べた鶴情報も今は北へ帰る鶴は道北のサロベツ・クツチャロ湖など・・・。



釧路市の丹頂鶴自然園へ行って、雪の釧路湿原歩いて帰るつもりでバスに乗り、丹頂鶴自然公園へ釧路の北へ広大に広がる釧路湿原の西側に添って 20 分ほど北へ上がった丘陵地 釧路空港にほぼ隣接して丹頂鶴自然公園がありました。



雪の釧路湿原 釧路市展望台より 2005.4.22.



釧路市丹頂鶴自然園で 2005.4.22.

まったく人影なし。ここでは雑木林の中に網の塀で囲って 餌場として丹頂が網の中で飼育されている。憧れの丹頂が目前にいる。網で隔てられていると言え、始めて見る自然の中にいる丹頂に感激。じっと眺めていると欲が出てくるもので、「舞を踊ってくれ 空とんでくれ・・・」と。



釧路市丹頂鶴自然園で 2005.4.22.

でも網の中のつがいはえさをつついているか、片足立って羽の中に顔をうずめているかで 実に静かなものである。

「時々 網の塀の外の雑木林に遊びに行ったり、雑木林の中にも丹頂が子育てしている」と教えてもらったのですが、そんな姿みられず。

1時間ちょっとでしたが、数組が訪れていただけでゆったりと雪原の丹頂を見られたことでもう満足満足。

● タクシーの運転手さんに聞いて 「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」へ

タクシーを呼んでもらって、釧路湿原の展望台へ

タクシーの運転手さんに「雪原で舞う丹頂が見られず 残念・・・」というと彼いわく。「やっぱり 自然でないと・・・ 昨日 吹雪いて 一面雪になったから 保証はでけんが、 釧路湿原に沿って もうちょっと北に入った鶴居村に 今日には鶴いるかも知れん」と。

「それ 鶴居村で飼育している丹頂でしょう」というと「違う。 自然に林にいる丹頂で 群れている」という。丹頂自然公園で聞いても 「自然に舞う鶴はもう 残念ながら見れない」という丹頂が群れて「舞っている」 ここまできたらヤッパリみたい。交通機関はなし。 早速 タクシーの値下げ交渉して釧路湿原を見ながら雪の丘陵地を約 20 分ほど走って鶴居村へ。 運転手さんも段々心配になってきていた頃 突然「丹頂 飛んでる 居る居る」と。前方の雪原に数百の丹頂が群れている。

「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」である。もう 舞い上がる気持で運転手さんと握手である。
本当に現地に行ってみなわからんものである。
後で聞くと ほんとラッキー 昨日はゼロ その前も 声は聞こえてみほとんど原にでてこなかったと・・・



雪原に群れ舞う丹頂鶴 鶴居村 丹頂の里 鶴見台 2005.4.22.

丹頂自然園で見た鶴と動きが全然違う。

丹頂の鳴声がある。 羽を広げて オスの鶴がメスを追い駆ける。 舞を踊っている。あっちでも こっちでも羽を広げてダンスをやっている。。。。。

テレビなどで見たのと同じで実にゆっくりとスローモーションでも見るかのように羽を広げて舞う
これが 自然の中の丹頂鶴 本当にラッキーでした。

この丹頂鶴が群れている雪原が餌が少なくなる雪原の冬の餌場 そして 雪原の後ろに広がる林や国道の反対側の林が住処の様である。

突然 2羽の丹頂鶴が舞い上がって 道路を挟んで 反対側の雑木林に飛んでゆく。見とれて シャッターチャンス进行を失う。 やっぱり 羽をひろげて飛ぶと大きい。

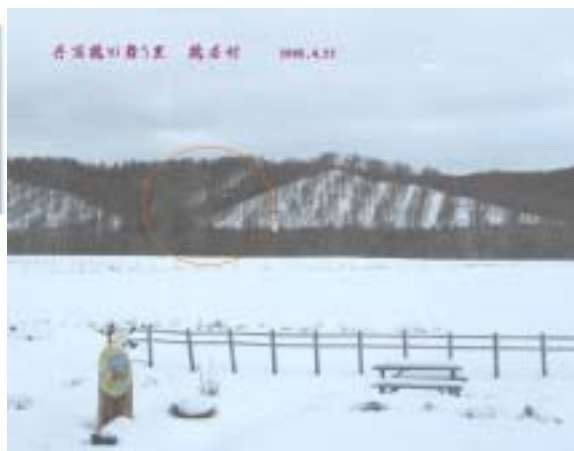
今 丹頂は繁殖期 オスが一声挙げると二声メスが答える このメスの答えを求めて鳴く。

そして つがいとなった丹頂は2羽一緒に飛んで 雑木林に消えて行く

さっき 丹頂鶴自然園で教えてもらったのを思い出しながら眺める。



雪原に群れ舞う丹頂鶴 鶴居村 丹頂の里 鶴見台 2005.4.22.



空を飛んでねぐらに向かう丹頂鶴

デジカメ もう少しズームが効けば、もっと大きく取れるのですが、残念。

丹頂の舞に歯軋りするが、仕方なし。

でも、自然の中で舞う丹頂の優雅な姿の動画が取れました。 小さいですが、動画の画像を組み込みました。



4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.2. 一足早い早春の駒ヶ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」

2005.4.24.



北海道 駒ヶ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005.4.24.

今から 5000 年前 日本列島の森には栗の巨樹が林をつくり、豊かな縄文文化を作った。

青森三内丸山縄文遺跡にはあの巨大な栗の 6 本柱が聳え、北陸では栗の巨木のウッドサークルが建っていたという。そんな栗の巨樹の群れ、今の里山で見る栗林では想像もつかない。

山内丸山遺跡の 6 本柱は日本にそんな巨木がなく、モニュメントとして 栗の巨木をロシアから輸入して建てたという。



【栗林が育んだ縄文文化】青森 三内丸山遺跡 6 本柱（上）と北陸のウッドサークル

「もう 縄文文化をそだてたような巨樹群は日本にないのか・・・」以前インターネットで調べると北海道 駒ヶ岳の山麓 海岸に近い丘陵の上に天然記念物の栗林「茅部の栗林群」があると言う。

北海道にいったら、是非見に行こうと今回 函館・南茅部を訪ねるのとおわせていってきました。



森町の駅からすこし登った街の中央の丘の公園に残雪を抱いた駒ヶ岳を背

景に元気な栗の巨樹が立ち並んでいました。

まだ 雪が消えたところで、木々には全く葉がなく、太い幹ががっしりと大手を広げ、一層たくましく見えました。

この栗林は北海道指定天然記念物（昭和 43 年指定）「茅部（かやべ）の栗林」と呼ばれ、天然の山栗。自分で数えたわけではありませんが、幹周（cm）が 480、471、460、415、365、335、・・・、その他 3m を越える栗の大木が全部で 147 本林立しているという。森町の海岸に沿ったこの丘陵には、太古の昔から延長 20km に渡って続く栗の密林であったという。

明治 5 年(1872)森港栈橋の脚材に大量の伐採があり、その後も鉄道枕木等の利用が続いてほとんど絶滅し、馬つなぎ場であった公園地帯の栗のみが伐採をまぬがれて現存したという。

よくぞ 残ってくれた。栗の巨樹 確かに日本にありました。



栗の巨木群 北海道 駒ヶ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005.4.24.
幹周（cm）が 480、471、460、415、365、335、・・・、その他 3m を越える栗の大木が全部で 147 本あるといい
雪を戴いた駒ヶ岳 噴火湾の海を背景に林立していました



「茅部の栗林」周辺から見る
駒ヶ岳と函館本線森町駅
2005.4.24.

縄文の文化は森の文化。 栗の巨木の森が食・住を提供し、集落を支え、文化を育んだという。
今 何処を見ても、そんな大きな栗の巨木 想像も出来ませんでした。
茅部の栗林は縄文の巨樹ではありませんが、太古の昔 縄文の文化を育んだような栗の巨樹群
よくぞ 残ってくれた。確かに日本に栗の巨木群がありました。



茅部の栗林の丘とその周辺から見る駒ヶ岳 2005.4.24.

「茅部の栗林」を見た後 駒ヶ岳を見ながら大沼へ。40年ぶりの大沼の散策してきました。
函館本線は幹線でもっと汽車の本数多いと思っていましたが、本当に少ない。駅で待つのもいやで、森町から駒ヶ岳の麓を越える国道を峠へ向かって歩きだす。 車も少なく、国道ではあるが駒ヶ岳を見ながらのwalk。
不意に峠に路線バスが現われたので、手を挙げる。大沼へ行くという近くを通るというので、乗せてもらう。乗客もすくないので、北海道はどこのバスも本当に親切である。
森町から大沼まで近いと思っていましたが、随分遠い。歩いていると数時間かかったところラッキーでした。



函館への国道をはずれ、駒ヶ岳山麓を大沼公園へ 2005.4.24.

10 分ちょっとで 大沼への標識の別れでおろしてもらって、駒ヶ岳を見ながらの駒ヶ岳山麓の雑木林を walk。

道にはもう雪はないが、ブッシュの中にはまだ残雪がいっぱい。道端にはふきのとうが群生して 春を告げている。

30 分ほどで、大沼の周辺道路へ出る。湖面と向こうに見えるモノトーンの林と残雪の山のコントラストが美しい。



40 年ぶりの大沼は すっかり 雪が消え 残雪の駒ヶ岳と大沼の湖面と雑木林 畦にはふきのとう 水芭蕉が春を告げる 素晴らしい風景でした。



雑木林の中の小さな池の傍に水芭蕉
今年初めてみる水芭蕉

森町から バスも含めて大沼公園まで約 2 時間ほど 大沼駅周辺はさすがに車と人の群れ 春を待ちかねた人たちが華やいていました。

昼時 大沼駅到着にあわせたようにやってきた特急に飛び乗って函館へ
私のような風来坊には本当にフリー切符は便利。



40 年ぶりの大沼公園

2005.4.24.

5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて 2005.4.24.



南茅部より眺めた噴火湾側に沿って続く恵山と亀田半島の山並み 2005.4.24.

この山並みの右端を越えて行くと「鉄山」から函館に至る



北海道南端の函館・渡島半島の地図をみるとその噴火湾側の海岸に沿って 南端の恵山から駒ヶ岳へ 亀田半島の山並みが続く。 その中に函館の町に隣接して「鉄山」の地名がある。

この地名に気づいてもう何年にもなり、「どんなところだろう。 鉄の山に違いない」と。。。。。

恵山は北海道南端の活火山で、この恵山から駒ヶ岳そして長万部に至る海岸沿いは縄文の時代から開けた地であり、また 海岸には砂鉄が堆積する砂鉄海岸。もっとも 北海道ではたたら製鉄の痕跡は未だなく、もっぱら本州から鉄製品が古くから持ち込まれてきたと札幌の開拓記念館で聞きました。

そして 恵山の南西の津軽海峡に面した海岸 古武井では幕末に北海道ではじめて溶鉱炉が築かれ、周辺の砂鉄を利用して製鉄生産が試みられたところ。これはわが国初の高炉操業の試みの一つでもあり、 開拓記念館にはそのパネルがありました。 しかし、実際には鉄生産はうまく行かず、数年で終わったようです。でも、上記したようにこの恵山を中心とした亀田半島の山並みは鉄を産し、また北海道ではじめて鉄生産がスタートした所と考えられる。



北海道 砂鉄の分布と古武井 溶鉱炉の絵図

4月24日 昼 函館の駅の案内所に飛び込んで 鉄山から縄文遺跡の密集地南茅部の海岸へ出るルートを教えてもらう。

「鉄山」のバス停で下りて 次ぎのバス 待って南茅部へ行きたい。 夕方 函館に帰れるよね??? または大沼の方面へも出れるし・・・」と聞くと「鉄山でおいて どうするの??? ほとんど 何も通らぬ山の中。

タクシーも迎えなにいてくれないよ 南茅部もほぼ 同じ」と呆れ顔でいわれた。

南茅部も函館に合併して函館市。ところが 交通の便はすこぶる悪く 1日数本のバス路線。

まあ どうにかなると 出発が迫っていた鉄山を通して南茅部行のバスに乗る。

函館から 15 分ほどで五稜郭・湯の川温泉の函館市街を抜けて トラビスチヌス修道院のところから、いよいよ山越え。 幾つか集落が点在する丘陵地を過ぎるといよいよ山が近くなり、30 分程で山の中に入り込み、人

家がなくなり、対向車もなく、バスだけが山間の曲がりくねった道を登って行く。 バスの中ももう数人。 眼前に山を大きく切り崩しているのが見えてくる。

「あそこが 鉄山。 バスも 2 分ほど休むよ」と運転手さんが 教えてくれる。



山の斜面に沿った道を大きく山を切り崩している碎石場を見ながら下って行って反対側に回りこんだところでバスが止まる。「鉄山」のバス停である。バス停の向こうにも同じようにやまを切り崩している碎石工場が見える。



赤茶けた山肌に黒く柱状節理状に縞模様のはいった部分が見え、一瞬 これが鉄の鉱脈と思いましたが、この黒い部分が粗粒玄武岩の岩脈で、きれいな平滑面に区切られた大きな石が採取されている。いずれにしろ 地下でのマグマが上がってきて、他の岩の層に貫入凝固した半深成岩である。深成岩にはマグマには大量の鉄分があり、このあたりに鉄の鉱脈があっても不思議でない。バスの運転手さんによると昔 このあたりに鉱山があったと言うがさだかでない。 「鉄山」の名もそこから北のかもしれない。しかし、現在では ここで採取されるのは粗粒玄武岩の碎石。バラスとして最適な石の様である。

周辺には碎石工場以外になにもなし。日曜日の昼だったからかも知れないが、人も車も全くとおらず、静まり返っている。山の真っ只中である。 案内所の人と言った意味がやつとわかった。



「鉄山」周辺 2005.4.24.

ただ、ここでまっすぐ南茅部へ山越えするルートと南の恵山の方へ山越えするルートが分岐する。昔から、ここは茅部や恵山の海岸と函館を結ぶ山越えの道でこのあたりでも鉄がとれ、海岸に運ばれたのかもしれない。運転手さんのアドバイスもあり、そのまま また バスに乗って、山を越えて「北の縄文」遺跡が並ぶ南茅部の海岸へ下って行きました。

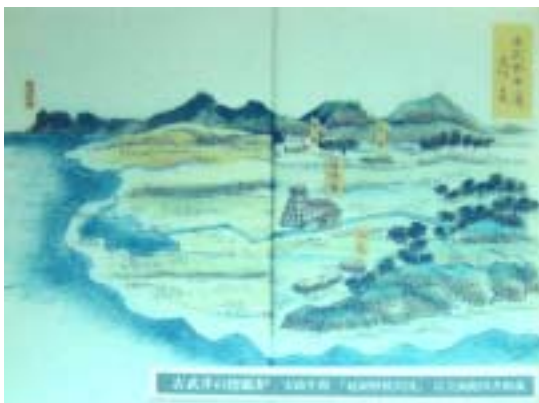


「鉄山」から亀田半島の山並みを越えて 噴火湾側の海岸へ そこは「北の縄文」の密集地 南茅部



恵山から駒ヶ岳へ続く山並み 「鉄山」周辺 2005.4.24.

函館の「鉄山」は火山帯に属する「鉄の山」か 火山帯の禿山と思っていましたが、 雑木林が生茂る山中。その中で 今はバラストの原料粗粒玄武岩を産する山中の採石場でした。でもこの恵山から駒ヶ岳へと続く亀田半島の山並みは火山帯の中にあり、この海岸では豊富な砂鉄が取れる場所。 「鉄の山」であっても不思議でない。



「たたら製鉄」との関連 鉄鉱脈などについてはよく判らなかったが、鉄との関連がありそうな場所でした。 武井では この周辺の砂鉄を使って、幕末に日本最初の溶鉱炉が建てられ、洋式の鉄製錬が試みられたところである。

「鉄山」の地名もこの幕末の鉄精錬と関連した動きの中でついたのかもしれない。

地図で見つけた「鉄山」 函館の「鉄山」も面白い場所でした。

2005.4.24.午後 鉄山から南茅部へ越えながら

早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.4. 「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて 2005.4.24.



大舟川から背後の高台 大船縄文遺跡を眺める 2005.4.25.



南茅部 大船縄文遺跡

2005.4.25.

函館から鉄山・亀田半島を横切って噴火湾沿いの海岸に出ると海岸にそった段地の上にはおよそ4KMごとに縄文の集落が並ぶ縄文遺跡の大集積地。

そんな海岸のほぼ真ん中 大船縄文遺跡は青森山内丸山遺跡と同じ5000年前ここには1000軒を越える竪穴住居群の大集落があったという。特に2mもの深さの竪穴住居詳細はわかりませんが、寒さをしのぐ工夫かもしれません。

また このすぐ南の垣の島遺跡からは6500年前の赤ちゃんの足型土版や9000年前の日本最古の漆製品が墓の副葬品から出土 磨光B遺跡からは縄文後期のアスファルト工房が出土。本当に華々しい縄文遺跡群である。海流に乗れば山内丸山の青森に渡ることが出来るとして実験航海をした南茅部の人たちに4,5年前山内丸山遺跡で出会ったことがあり、一度は出かけたかったところでした。



南茅部 大船集落と噴火湾の向こうに羊蹄山・有珠・樽前山の山並み 2005.4.22.

4月22日午後 バスで鉄山・亀田半島を越えて 南茅部の海岸沿いの中心地川汲の集落に入り、ここから海岸沿いに北へ噴火湾の海を見ながら大船の海岸へ

後ろには海に突き出た恵山の山並み 前方には噴火湾の向こうに室蘭・樽前山から有珠山・羊蹄山の真っ白な山並みが見える。 また、海には南茅部の特産 昆布漁の舟が沢山出ている。本当に穏やかな海の景色である。

直ぐ右手は海 左手には山の崖が迫り狭い集落が一本の道に沿ってポツポツと並ぶ。

川汲から10分ほど 函館から1時間30分ほどで大船の集落に到着。

ここも海沿いの崖にへばりついた集落で海岸沿いには耕地がない



南茅部 大船の集落から 噴火湾南の恵山方面 & 集落の南 垣の島遺跡のある海岸丘陵 2005.4.22.



南茅部 大船縄文遺跡

2005.4.25.

バス停のすぐ横が小学校で、その南側に大船川が噴火湾に流れ込み、川の両側に海岸段丘がずっとつづいている。案内板にしたがって、小学校の北側から段地の上に上ってゆくと上はなだらかで上に集落があり、そのはずれの墓地に隣接して大船遺跡がある。

崖の上の高台 この山の裾野一帯が大船遺跡で、舟形竪穴住居と竪穴住居の一つつつを残して 埋め戻されている。大船遺跡からは前に噴火湾が広がり、後ろの山のなだらかなスロープは雑木林。おそらく、この雑木林一帯に縄文の集落がひろがっていたのだろう。



大船縄文遺跡 2005.4.22.

この海岸丘陵地に 5000 年前 青森三内丸山遺跡と同じ時代
1000 軒を超える大集落 その住居は深さ 2m にも及ぶ竪穴住居群 舟形の竪穴も見つかった
この集落を支えたのは栗などの森の実とクジラなどの海。

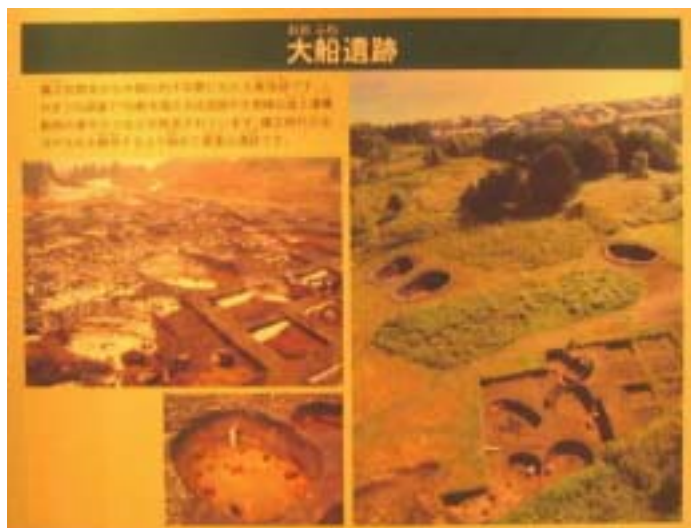
遺跡はほとんど埋め戻されているが、直ぐ横に立派な大船C遺跡速報展示室があり、大船C遺跡はじめ、南茅部の縄文遺跡について出土品ふくめて、レビュー展示されていた。

北の縄文遺跡というと青森三内丸山遺跡の大集落を考えるが、同じ文化圏の大集落が津軽海峡を挟んでこの南茅部にあり、素晴らしい文化を育んでいたことを知る。

北の大地 北の縄文 というが はるか縄文の時代には この地が中心地のひとつであったこと実感する。



【大船 C 遺跡速報展示室】



大船縄文遺跡 発掘時を伝えるパネル



すごい数の石皿が 1000 軒を超える竪穴住居と共にでた
また 人の大きさに竪穴住居が特異的に深い

【北の縄文を紹介するパネル展示】

函館市街地から東に約 30 キロ 鉄山・亀田半島を横切って噴火湾沿いの海岸に出た南茅部は縄文の草創期から縄文後期まで、縄文時代を通じてことが生活していた華々しい縄文遺跡群の集積地。

北海道内でもっとも温暖な地域に入り、縄文の最盛期（中期）は非常に住みやすい場所であったと思われ、海岸にそった約 30 キロの段地の上にはおよそ 4 KM ごとに縄文の集落が並ぶ縄文遺跡の大集積地。





そんな海岸のほぼ真ん中に大船縄文遺跡があり、青森山内丸山遺跡と同じ 5000 年前の縄文中期 ここには 1000 軒を越える竪穴住居群の大集落があった。また このすぐ南の垣の島遺跡からは 6500 年前の赤ちゃんの足型土版や 9000 年前の墓の副葬品から日本最古の漆製品が出土 磨光 B 遺跡からは縄文後期のアスファルト工房が出土。海流に乗れば山内丸山の青森に渡ることが出来るとして実験航海をした南茅部の 人たちに 4,5 年前三内丸山遺跡で出会ったことがあり、一度は出かけたかったところでした。

「北の縄文」 南茅部に三内丸山遺跡に引けをとらぬ縄文文化が津軽海峡を共有して花開いていた



5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて 2005.4.25.

【札幌 北海道中央脊梁山脈をループする鉄道 Walk 】

札幌→千歳・石勝線→釧網線→石北線→函館本線→札幌



釧路湿原



阿寒の山々



知床連山

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 釧路湿原 | 細岡駅周辺 釧路川に沿って |
| 2. 釧網線の車窓から | 釧路湿原&阿寒・知床の山 |

4.24.夜 函館から札幌に帰って、そのまま 23 時発の釧路行の夜行特急「まりも」に乗る。

どうしても 釧路湿原を歩いてみたかったのと釧網線に乗って、阿寒・知床の山々をながめたかった。そして帰りは網走から昼の北見峠を越えて 時間があれば黒曜石の白滝に下車してみたい。 雪の山の車窓見物である。

午前 2 時過ぎ、汽車は真っ暗な狩勝峠を越えて行く。狩勝のトンネルをぬけると大きな満月が真っ暗な山の背後に出て、汽車を追いかける。

汽車の走る音しかない真っ暗な山の端に浮かぶ月 いつからそうなったのか知らないが、美しいというより、怖いというか 不気味な印象 でも 眼を そらすことができず、じっと眺めていました。 (網走で知ったのですが、4.25.朝 尼崎での JR 福知山線の脱線事故でした)

朝 6 時前に釧路着。3 日前と違って雪が消えているが、やっぱり霧の中。 厚岸・根室の方へ足をのばすかそれとも 霧の釧路湿原に行くか迷うが、いずれにせよ便が悪い。 釧網線も予想以上に汽車がない。何処もそうですが、山を越えるのは他国異郷の地である。

汽車の運転手さんに聞いて釧網線 細岡駅で下りて釧路湿原を少し歩いて、 それから再度釧網線に乗って車窓から釧路湿原を見ることにする。

1. 釧路湿原 細岡駅周辺 釧路川に沿って



細岡駅に降り立つと そこはもう 釧路湿原 の中。釧路湿原の東端の高台を汽車が走り、ここから先 カーブして釧路湿原の中へ入って行く鉄路と無人の駅舎があるのみで、まったく人っ子一人居ない。 目の前には 湿原を流れる釧路川 そしてその向こうに灌木が生茂る釧路湿原が霧の中にありました。

釧路へ戻る時間を確認してぶらぶらと釧路川沿いを歩く。釧路川は雪解けの水を集めて堂々と流れるが、時折鋭い鳥の声以外まったくの静けさの別世界である。

霧の間から 時折ぼやっと観光展望台の姿が見える。鳥の声を聞きながら 霧の中を釧路川沿いに早朝の散策を楽しみました。 まだ 春遠からじ の釧路を感じました。



霧の中の釧網線 細岡駅 2005.4.25. 早朝



釧路湿原 細岡駅周辺 釧路川に沿って 2005.4.25. 早朝

2. 釧網線の車窓から 釧路湿原&阿寒・知床の山

細岡駅から一端 釧路に引き返して、9 時 05 分発の快速「しれとこ」網走行に乗って阿寒・知床へと続く山を越えて網走へ。

車窓からの釧路湿原そして移り変わる阿寒・知床の山々を眺める気楽な walk? である。

まだ、釧路を出るときには朝霧が立ち込めていましたが、見込みどおり釧路湿原に差し掛かる時には霧が晴れ、つい 3 日前の雪原がうそのような何処までも続く葦原の海が広がっていました。

車窓からは、朝歩いた湿原とは見る高さが違うので、景色がまったく違う。

一昨日がうそのように一面の雪原が消え 何処までも続く 灌木と葦原の海。

今行く釧路湿原を挟んではるか反対側の丘のあたりが、雪原に舞う丹頂を見た鶴居村のあたりか。

湿原は釧路川がとうとうと流れ、おそらく網目のように細い水路がひろがるのでしょうか、一面に葦や灌木の原がどこまでも続いている。

尾瀬や昨夏訪れたサロベツ原野のような池が点在する草原とは違って、栃木の渡良瀬川遊水地のあの葦原群のイメージである。

僕みたいなひまな風来坊は居ないだろう????とと思っていましたが、わずか乗客 20 名足らずの車内 先頭へ行ってカメラやビデオを構える人 湿原側の座席に慌てて変わる人 すれ違い列車待ちで駅に停まると降りて 駅の先頭に走る人など約半分ぐらいいは 鉄道の旅を楽しむ人たち。

釧路湿原が過ぎると 今度は雪に覆われた林の中 知床の付け根と 阿寒の山の間を越えてゆく山岳列車。すばらしい雪どけの冬と春とが交差する景色にみんな汽車の旅を楽しんでいる。

【釧網線 車窓から 【1】 釧路湿原 2005.4.25.】

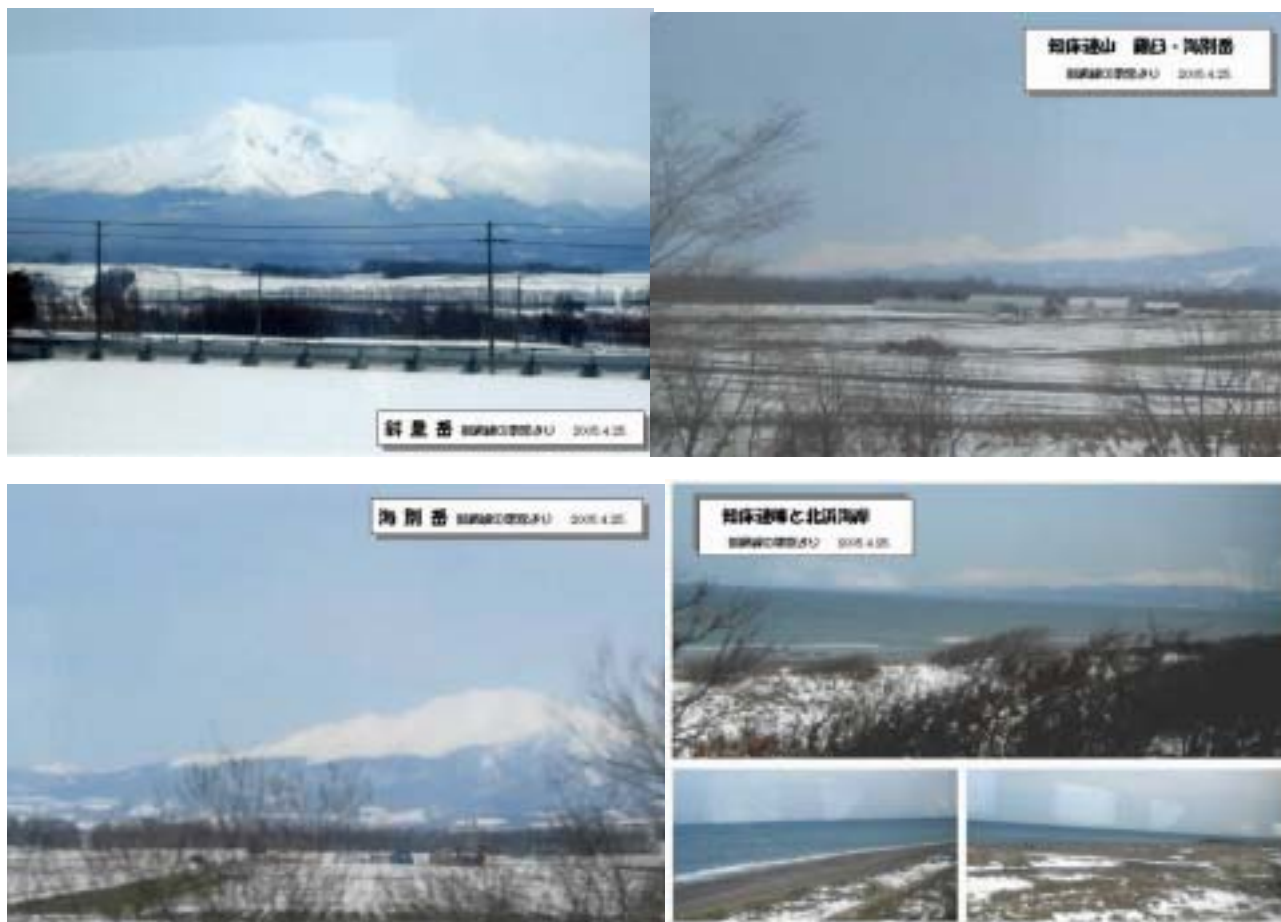


釧網線より 釧路湿原 205.4.25.

【釧網線 車窓から 【2】 阿寒の山々 2005.4.25】



釧網線より 阿寒の山々 2005.4.25.



釧網線より 知床の山々

2005.4.25.

先頭に戻る

【札幌 北海道中央脊梁山脈をループする鉄道 Walk が完成 】

札幌→千歳・石勝線→釧網線→石北線→函館本線→札幌

釧路から網走まで約3時間 釧網線は鉄道マニア憧れと聞きましたが、ほんとうに風来坊には飽きない路線
同じような風来坊に何人か出会いました。

網走で13時30分発石北線特急「オホーツク」に乗り込む。

朝釧路から乗った人が数人 おたがい ニャーと笑って乗り込み。

北見からループ状に延々と豪雪の北見の山を上って遠軽へ。スイッチバックではないのですが、遠軽で汽車は反対方向へむきを変え、また豪雪の山の中に入ってゆく。遠軽からは北見峠を越えて大雪の山中を上川・旭川へ下って行く。豪雪の名前が本当にそっくり 当てはまる深い雪の山中。黒曜石の白滝も雪の中。下車せずそのまま旭川・札幌へ

一度やりたかった北海道 脊梁の山を鉄道ループでめぐる旅 「札幌を出て 石勝線 狩勝峠を越えて釧路へ 釧路から釧網線 釧路湿原・阿寒知床の山を見ながら網走へそして石北本線で豪雪の北見・大雪の山々を眺めながら北見峠を越えて旭川から札幌へ帰る」実現できました。

豪雪の白滝駅を見ながら 今日一日回った鉄道の道をありかえっていました。

一日のループ完成を祝って 黒ビールを飲んで帰ろうと

豪雪の大雪山 縄文黒曜石の産地 白滝周辺を眺めながら 2005.4.25.夕

Mutsu Nakanishi

早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.6. 「北の縄文」を訪ねて [2] 千歳・小樽忍路・余市へ 2005.4.26.& 27.

「リンゴの実るところ 縄文のサークルあり」



- 1 千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて
2. 小樽忍路・余市のストーンサークルを訪ねて
3. フゴッペ 洞窟 岩面刻画



「北の縄文」 今から 5000 年前青森山内丸山縄文遺跡が栄えた頃、渡島半島から道央にかけての南北海道にもほぼ同じ文化圏を構成する縄文文化が栄えていた。

「リンゴのなるところにストーンサークルあり」

「北海道にも縄文のストーンサークルがあり、墓に土の土手を築く土のサークル周堤墓がある。北海道では是非見にいかれたら・・・」と開拓記念館の平川学芸員さんに色々教えてもらって 地図なども書いてもらってストーンサークルのある小樽・余市の海岸へ また周堤墓のある千歳の原野を訪ねました。

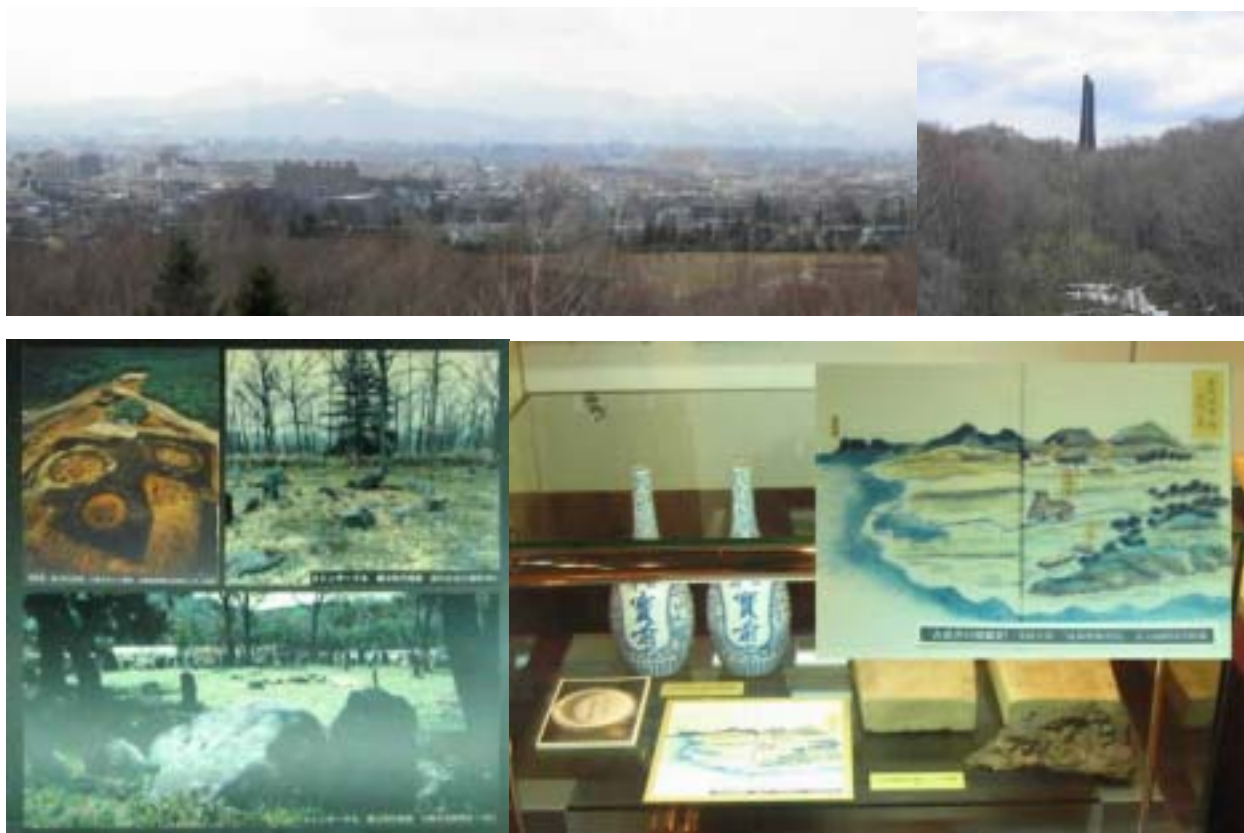
静かにねむるこれらの遺跡にはまるでそれらを守っているかのように早春の草花がひっそりと咲いていました。

北海道に北海道の砂鉄を使った「たたら製鉄」があつたのか????
北海道 縄文の栗林の文化圏何処まで????などと勝手なイメージ
持って訪れた北海道開拓記念館。
館内には太古からの北海道の歴史が展示されていました。



鉄もそして「北の縄文」も。

学芸員の平川さんに色々教えてもらい「北海道での鉄生産は幕末まで行われなかったらしい」「北海道の栗林は道央 小樽近辺まで」などと教えてもらう。 また、北海道の縄文のストーンサークルについても。
北海道開拓記念館



北海道縄文のサークル（中央） 函館古武井 日本初の溶鉱炉 （右）のパネル

「北海道にも沢山のストーンサークルがある。また、土の縄文サークルも。
雪が消えた今がはっきりサークルが見える絶好の時期 今 見に行かないと・・・
行くなら小樽の恋路のストーン サークル が行きやすい
ほかはまだ雪 見つけれないだろう。
小樽に行くなら直ぐ近くのフコッペの洞窟縄文の素晴らしい線刻画 これも是非に・・・
また、千歳の土のサークル
千歳駅から勇払の原野の方に入った林の中 今が一番いい・・・是非是非に・・・」

平川さんの熱弁にあおられ、地図も書いてもらって どんどんイメージ膨らませて 行ってきました。

「忍路海岸」の言葉にも魅せられて・・・

「リンゴのなるところにストーンサークルあり」とどこかで聞きましたが、思いもかけず、「北の縄文」 ストーンサークル・土のサークル（縄文の周堤墓）の現地に立てて感激でした。

林の中に静かにねむるこれらの遺跡には まるでそれらを守っているかのように早春の草花がひっそりそれも一層印象的でした。



1. 千歳市の土のサークル キウス周堤墓群を訪ねて

2005.4.26.



国道 377 号線の両側に広がるキウス周堤墓群 千歳市中央 2005.4.26.

4.26. 野幌の開拓記念館を訪ねた後、そのまま新札幌から千歳へ。

夕方になるが、「土の縄文サークル」がどんなものか???訪ねました。

「縄文の土のサークル キウス周堤墓」 私はまったく知らず、初めて聞く名前。

千葉市の巨大な縄文貝塚「加曾利貝塚」も貝塚が巨大な環状になっているが、縄文後期の墓で地面を丸く環状に掘り下げ、掘った土を周囲に堤として環状に積む。

この環状に積み上げたつつみの内部を集団の墓としたもので、最大の周堤墓では直径が 75m もあるという。



千歳駅に降り立ったのは午後 3 時過ぎ。

市街地から国道 337 号線を長沼町に向かって 8km、道東自動車道の千歳東インターチェンジを越すとすぐに道路の両側にせまる林が目印。ただし、交通機関なく道路沿い歩くかタクシーしかなしと聞いている。

詳細な地図を書いてもらったので楽勝である。一応 行きはタクシーで行き、帰りは歩くことにする。



タクシーに乗って地図を見せる。「場所は判るが 何か看板があったなあ・・・ なんにもないし、人気もない場所だよ」と教えてくれる。

千歳の市街地を抜けて 広い勇払原野の名残の丘陵地を北東方向の長沼へと続く国道 377 号線。10 分ほど走ると田園地帯の中に高速道路が見える。追分から夕張への道東自動車道路。

これをくぐるとまっすぐ続く国道の両側に雑木林が立ちふさがる。あの林が「キウス周堤墓遺跡」だという。

小さな起伏のある雑木林が続いているだけで、良くわからない。

道端にある「キウス周堤墓遺跡群」の案内板でそれと判る。

勇払原野の名残の千歳市中央周辺原野と
キウス遺跡の森 2005.4.26.





キウス 周堤墓群 2005.4.26.

案内板の解説を読んで 雑木林の中に入ると、なんでもない起伏の雑木林と思っていたところが、傾斜のゆるいすり鉢状に環状に取り囲んでいる。

一つの環はセンターの国道を越えて向こうの雑木林の環とで一つの円を作っている。 そんな環が雑木林の中に数個見える。すり鉢の中は平らな広場で 木々がまばらで、落ち葉のじゅうたん。 ここが縄文後期 今から 3000 年前の集団墓。人っ子ひとりいない雑木林の中であるが、国道にはひっきりなしに自動車を通る。全体が落ち葉に覆われていて、まったく墓には見えないが、縄文の墓がそのまま地表に現われている場所である。

おそらくは 相互に関係深い一つの集落・集団がここに集団墓地をもち、相互の絆を強めていたのだろう。キウス周堤墓群 現地案内板には次のように解説が書かれていた。

千歳市キウス 周堤墓（しゅうていぼ）群は、千歳市の中心から東方 9 km の千歳市中央地区、石狩低地帯を望む 馬追（まおい）丘陵南西麓のゆるやかな斜面にあり、約 3000 年前の縄文時代後期につくら れた集団墓。

地面を丸く環状に掘り、掘った土を周囲に土手状に積み上げ、内側を墓地にしている。

周囲に堤があることから「周堤墓」と呼ばれる。

国史跡指定地のキウス周堤墓群には全部でこのような墓が 8 基あり、一番大きなものは直径が 75m もある。

土手の上から竪穴の床までの深さは 5.4m、最も小さな墓の直径は 20m。

仮に一人が一日 1m×1m×1m の穴を掘ったとすると、25 人でおよそ 4 ヶ月かかることになる。

縄文時代のお墓が現在の地表面で見ることができるまれな例で、約 4 万 m² の範囲が国の史跡に指定された。

現在、国史跡のキウス周堤墓群とその周辺で 24 基の墓が見つかった。

（キウス周堤墓群 現地案内板解説等より抜粋アレンジ）

このような大きな円環を持つストーンサークルが現われるのも縄文後期 同じ時代である。

なぜ周堤墓なのか この集団はストーンサークルを作らなかったのか???

疑問はひろがりますが、良くわからない。もっとも 縄文のストーンサークルは集団墓というより、集団の祭祀の場所の性格が強いが・・・



この周堤墓の土手には春を告げる福寿草や名前は知らないが、敷き詰められた枯葉のじゅうたんの中で黄色の小さな花が咲き、静かに墓を見守っていた。

また この周堤墓の雑木林に入る国道の道端にはこれもふきのとうが隊列を組んで並んでいた。ヤッパリ、札幌で教えてもらったとおり、今でないと見られない「北の縄文 土のストーンサークル」でした。

30 分程 この雑木林の中を歩き回って、国道を今度は歩いて帰路。

ちょうど 夕日の陰影の強い時間で、周辺の雑木林や原野の草が 本当に燃えるように鮮やかで、この「縄文の土のサークル」を訪れたことにまるで礼を言ってくれているようで素晴らしい原野の夕。

心うきうきの Walk でした。

途中で長沼から千歳へ行くクルーザーが止まってくれて 「千歳までのってけ・・・」と本当にありがたい。これもラッキーでした。

2005.4.26. 千歳の夕景を眺めながら Mutsu Nakanishi



2. 小樽忍路・余市のストーンサークルを訪ねて 2005.4.27.



ストーンサークルの残る小樽・余市の海岸 小樽 忍路のストーンサークル 2005.4.27.

- | | | | |
|----|------|-----|------|
| a. | 小樽忍路 | 忍路 | 環状列石 |
| b. | 小樽忍路 | 地鎮山 | 環状列石 |
| c. | 余市 | 西崎山 | 環状列石 |

4.27.朝 札幌から函館本線の特急で小樽へ 今日小樽・余市にある縄文のストーンサークルを訪ねる。小樽から余市の海岸段丘の丘には縄文時代から開けた地。また 本州の縄文と北方の縄文が出会う接点でもある。 本州の縄文を育んだ栗の森もこのあたりが北限という。そんな縄文文化の節点の地に「縄文のストーンサークル」があり、また 北方文化の流れといわれる洞窟に描かれた線刻画があるという。

「東北のストーンサークルとは ちょっと違うところもみてほしい」

「小樽からバスが峠を越えて崖が続く美しい海岸沿いに出ると忍路海岸。少し行って岬のトンネルをくぐって海岸から離れると直ぐ忍路のバス停。そこから 忍路の集落を抜け、山の方へ上ったところが忍路のストーンサークル。さらに西へまた海岸沿いに出て、余市に入る岬のトンネル抜けたところでバスを降りて山に入ったら、西崎山のストーンサークル。その海岸にフコッペ洞窟がある。

素晴らしい海岸だから 縄文といっしょに景色を楽しんできて・・・」

と開拓記念館で聞いた。



小樽 忍路海岸から積丹半島



西崎山ストーンサークルからフコッペ海岸 2005.4.27.

小樽の駅前から余市を通って積丹半島へ行くバスに乗って忍路海岸へ向かう。

ここは札幌から小樽を通して函館へ向かう幹線道路で道も広く交通量も多い。小樽から 15 分ほどで市街地を出て崖が続く海岸にでる。真っ青な海と白い山が続く積丹の岬が実に美しい。「忍路」の名前がロマンチックで この名前に惹かれてこの海岸を訪れる観光客も多いのだろう。

「正面の岬をトンネルでくぐったら 忍路だよ」と運転手さんが教えてくれる。

岬を抜けると海岸の裏側の小さな丘が続く丘陵地。ぽつんと一人丘の上の道路脇に下ろされる。道路の反対側に小学校があるが、集落は丘の下に見え、バイパス道路が通り抜け、その向こうに小さな雑木林の丘が続いている。あの丘のどれかに忍路のストーンサークルがあるのだろう。

イメージ的には忍路の海が見下ろせるストーンサークルを勝手にイメージしましたが、当て外れです。



忍路小学校のバス停



忍路の集落に続く丘
この丘の斜面に忍路ストーンサークル

集落を通り抜け、バイパス道路に出たところに「右 忍路環状列石 左 地鎮山環状列石」の標識。忍路環状列石だけでなく、直ぐ隣の丘にも環状列石がありました。

バイパスの直ぐ南から丘へ入ってゆく道にはまだ雪が残っていました。

「丘の上は雪でストーンサークル見られませんか・・・」と農道の入り口で雪を集めているおばさんに聞くと「ストーンサークルはやっと雪が消えて 見られるよ」と。

少し入るといきなり道の右手に案内板「忍路環状列石」が見えました。



● 忍路環状列石



忍路環状列石 約 3500 年前の縄文後期の遺跡。

緩やかな丘の斜面を平らな面に造成し、南北 33m 東西 22m の楕円形に石を配している。

サークルは 2～3m の幅に高さ 10～20cm の小石を環状に重ね置き、その内側に高さ 100～200cm の大石を配置されている。

明治 19 年の報告（渡瀬 1886）には、小高い山は「三笠山」と呼ばれており、その為古くは三笠山環状石籬（現在は忍路環状列石）と呼ばれた。近代になって一部手が増えられ、作られた時と異なっているところがある。

縄文時代の生活や精神を知る重要な遺跡。

恋路のストーンサークルも 他と同じく日常生活空間と区別された墓地・弔いの儀式を行った場所と考えられ、北海道のストーンサークルでは 東日本で造られたストーンサークルがその後 北海道に入ってその後独自の变化を遂げたという。

この環状列石の北側に隣接する同じ時代の忍路土場遺跡からは発掘調査で巨大木柱が発見されており、環状列石と関連する祭祀的な遺物と考えられ、古代のシャマニズムを考える上で貴重な資料となっている。

（ 忍路環状列石 現地案内板 解説 小樽市教育委員会資料 より）



忍路ストーンサークル 環状の列石 外に小さな石が敷かれ 内に大きな石が立ち並ぶ 2005.4.27.



忍路ストーンサークル 中央部の立石 一つでなく数箇所に石がたっている

環状部の列石この忍路のストーンサークルでは環状の列石の内側に大きな石が立ち並んでいる。

雰囲気的には青森小牧野のストーンサークルに近い感じがするが、小牧野のように環状の列石が組み込まれてはいないが、環状の列石の内側に 1m を越える石がたっている。 また、サークルの中央には数箇所 配石の真ん中に立石が立っている。

この立石には三角状の割り石や長方形の石もあり、今まで見たストーンサークルとは異なっている。



忍路ストーンサークルのある傾斜地に隣接して 生活の場である忍路土場遺跡が出土したという

この忍路ストーンサークルは明るい丘の麓でこのストーンサークルに隣接して忍路土場遺跡があり、こちらは生活の場であったという。

忍路ストーンサークルに隣接する傾斜地が沢に接した畑になつていて、ここが土場遺跡かもしれないが、よくわからなかった。

しかし、この忍路土場遺跡は縄文後期（約 3500 年前）の湿地遺跡で大量の木製品を始め漆工芸品、繊維製品などと共に木の実の四点セットとよばれるオニグルミ、ドングリ、クリ、トチノキの木の実が出土し、河川に接した場所には水場遺構があり、木の実のあく抜きさらし加工が行われていたらしい。

このように、縄文後期のストーンサークルが生活の場に隣接してあるというのは初めてであるが、それがどんな意味を持つのか興味のあるところ。

● 地鎮山環状列石（小樽市）



忍路 地鎮山環状列石 2005.4.27.

忍路ストーンサークルから 西へ約 1 キロメートル程の小高い山が地鎮山でこの山の頂上にも同じ縄文後期のストーンサークルではあるが、ほかのとは少し違った形態の小さなストーンサークルが在りました。

現地に行くまでまったく知らなかった遺跡。

バイパスを少し西へこの地鎮山を回りこんだところにこの山への良く整備された登り道があり、のぼりつめた狭い頂上部に鎖で囲まれた 10m 径ほどの 広場に大きな立石が数個 点在し コンクリートで保護された四角い穴があるのみで、案内板の解説を読まないととてもストーンサークルとは思えない。

地鎮山環状列石

3500 年前の縄文後期の遺跡で、地鎮山頂上の平らな地点に高さ 1m ほどの立石を 12 個使い 長径 10m 短

径 8m の楕円形に配している。

昭和 24 年の発掘調査で中央部の石を敷き詰めた部分の下から縦横 2m 深さ 1m の四角い墓穴が見つかった。
(地鎮山環状列石 案内板より)

この遺跡では土壌墓が一個しか発見 されなかったことから集団の墓ではなく首長墓としての性格を持つものとされている。 現在、墓壇の壁はコンクリートで土留めされています。



四角い墓穴のまわりに円石が敷き詰められているのが見えるが、円石は土と落ち葉にほとんど隠れている。大きな立石とクサリでサークルをイメージする。

かえつて、インターネット調べると調査時の円石を敷き詰められている様子を示す写真がありました。(上の右端写真)

また この山の斜面の所々にカタクリの花や白い花が春をつけていました。



● 余市 西崎山 ストーンサークル



フコッペの海岸から余市 2005.4.27. 西崎山ストーンサークルからフコッペの岸 積丹半島の眺望



西崎山ストーンサークル 2005.4.27.



中央 奥が西崎山 ストーンサークルの丘の上

忍路からバイパスを行かずに元の国道に戻って、余市に向かって歩くと 30 分程で蘭島の市街地を抜ける。

蘭島の街を出るところで、海岸に近い岬にぶつかり、トンネルでこの岬を抜けると、パツと海が開け、余市へ続く浜と積丹半島が見える。

真っ青な日本海と浜が美しい。

このトンネルが小樽と余市の境でトンネルの上の岬が西崎山の尾根である。

この崖が海岸と直角に陸の奥に伸び、

前方には右に日本海に沿って砂浜のある

平地が余市の市街地へ続いている。ちょうどコの字型の平地の海岸フコッペ海岸である。

縄文の頃には もっと奥まで海が入っていたとおもわれる。

トンネルをでた崖の直ぐ横にコンビニがあり、崖に沿って奥の丘陵地に登って行く道が在る。これが判り

にくいと教えてもらった西崎山への道。

のぼって行くとサクランボの木が立ち並ぶ果樹園の中を道は通り抜けて登って行く。 フコッペの海岸が素晴らしい。さらに登りながらこの丘陵を巻くとバイパスのトンネルのところに出て、西崎山ストーンサークルの標識が見える。



フコッペ海岸から西崎山へののぼり道 & バイパス西崎山トンネルの上の階段 ストーンサークルの入り口

このトンネルの上への階段を上がると雑木林に包まれた西崎山ストーンサークル。

下を通ってきた果樹園の上の狭い丘の先端部にあたる。

階段を上がって、丘の上の雑木林の中を良く整備された遊歩道を進むと西崎山ストーンサークル。道の脇にはここでもカタクリの花が出迎えてくれる。

スト変サークルには それこそ 直径 10m ほどの赤茶けた円形グラウンドに沢山の自然石の小石が散らばり、所々に立石が立っている。



西崎山 ストーンサークル

2005.4.27.



西崎山 ストーンサークルの配石墓群

2005.4.27.

良くみると直径 1m 弱のサークルの真ん中に立石が立っている。そんなのが 案内板によるとこの円形グラウンドに 7 箇所。そして その配石の下には穴があって穴の中からリンが検出されたことから、この立石一つ

一つが配石墓の様である。

また この配石墓の間から縄文後期の土器が出土したという。

ストーンサークルというと 周囲に環状の環をイメージするが、この円形グラウンドには環が見られないが、7つの配石墓の集合体全体でみると 100 余りの自然石が配され、それが長径 17m(南北) 短径 11m(東西)の楕円をなしている。 こんなストーンサークルがこの場所をふくめ、この尾根筋に 4ヶ所あり、それぞれに 3～5 基の配石墓があるという。

また 一つ 知らなかった縄文のストーンサークルをみました。



一つ一つの配石墓の傍らや尾根の道の傍らにはカタクリの花が咲き、いかにもこれらの墓を守っている風である。 また、この丘の上からは眼下にフコッペ海岸から積丹半島へと続く日本海がみわたせる素晴らしい場所。 おそらく集落はこの下の海岸の高台にあったのだろう。

素晴らしい場所での縄文の光景が目につく。

今日一日 それぞれタイプの異なる縄文のストーンサークルを見ました。

「ストーンサークルは 縄文の心を映す」と言いますが、東北本州のストーンサークルだけでは縄文を語れない

縄文中期 隆盛を極めた縄文が寒冷化など森の恵みが変化して 大きな集落が維持できず、住み慣れた場所を離れ、新しい場所をめざす。

そんな縄文の後期 この北の大地でもストーンサークルが形成される。

東北のストーンサークルが大型で集団の絆を確かめる祭祀の場所のイメージが濃いのに対し、

今日見た北海道のストーンサークルは集団の共同墓の 色彩が強い。

このストーンサークルが縄文の生活・精神にどんな意味をもつかわかりませんが、集団を大事にせねば生

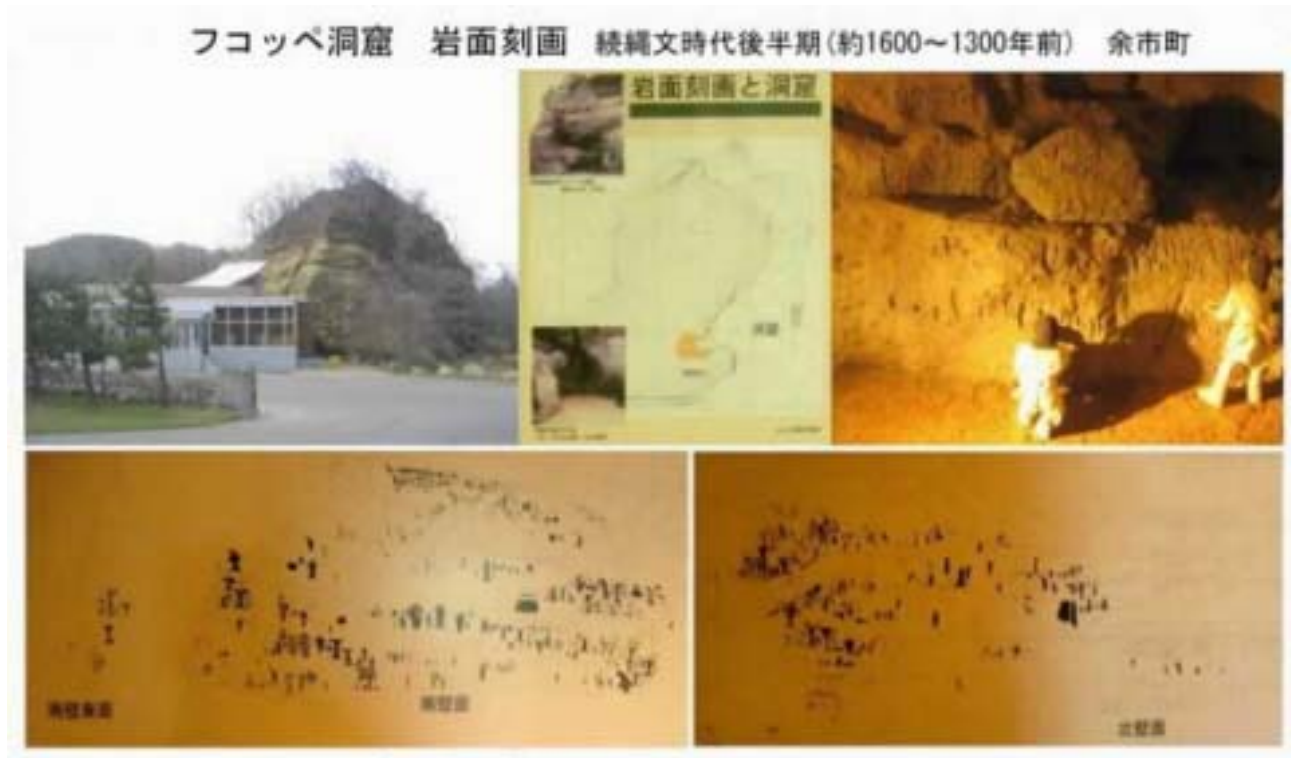
きていけない社会であつたろう。

そんな心の絆がストーンサークル 自然石の配石に込めた思いを傍らに咲く春の妖精「カタクリ」の花
はずっと見守って来たに違いない。

はるか遠く見下ろす日本海に縄文の海を想像しながら山を下りました。

2005.4.27. 西崎山ストーンサークルで余市・積丹の海をながめながら

3. フゴッペ 洞窟 岩面刻画 2005.4.27.



昭和 25 年発見の洞窟遺跡。

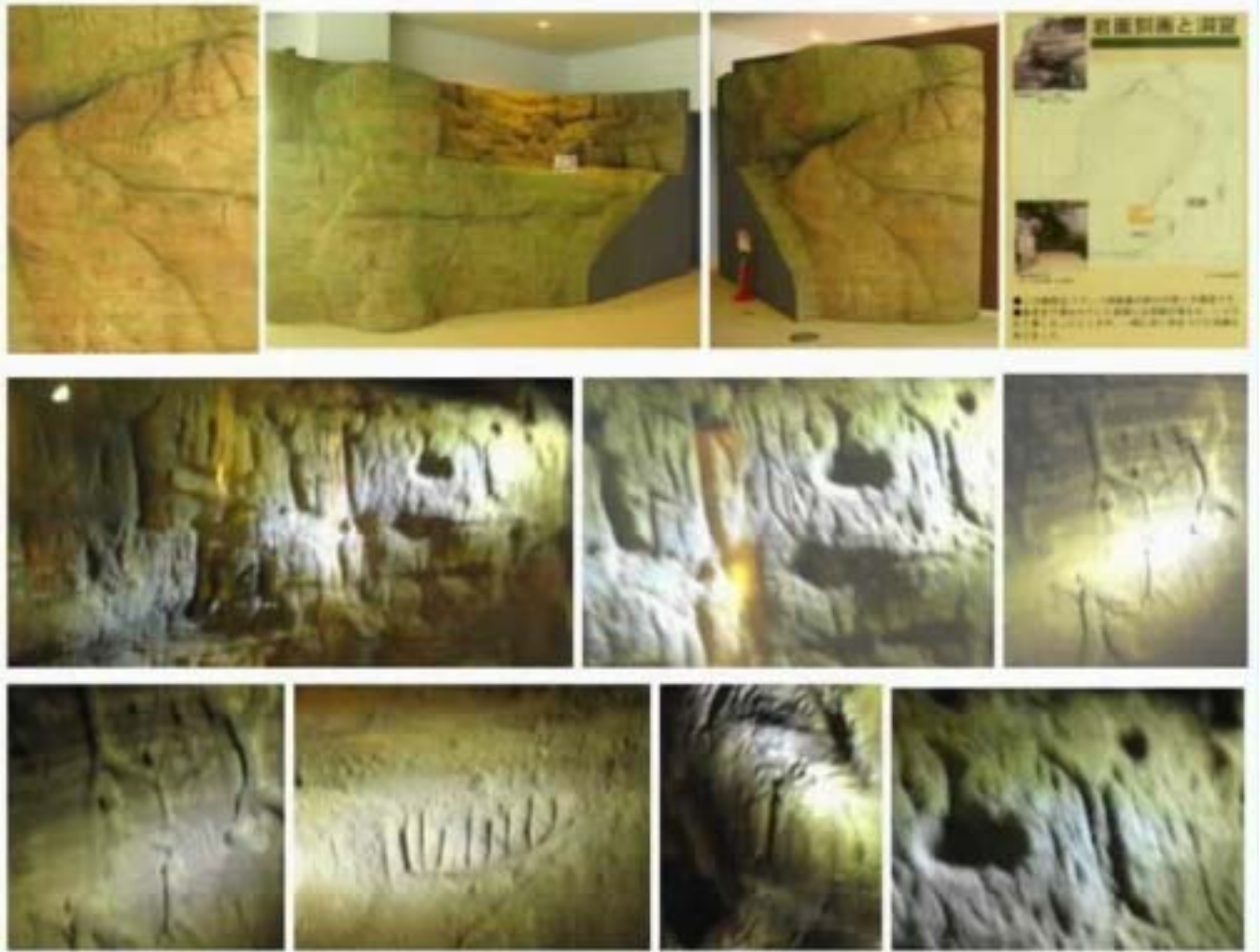
洞窟の大きさは間口・奥行きとも 7m あり、高さ 8. 2m で内部には貝・灰・砂が層を作って堆積していました。発掘調査の結果 続縄文時代の土器や石器・骨角器が多量に発見され、同時に内部の壁画に仮装した人物、動物等 200 以上の続縄文時代（約 1500 年前）の刻画が発見された。

岩壁に刻画を残す洞窟遺跡は小樽市手宮洞窟と共に現在日本国内において対比されるものがないが、北東アジアには広く岩面刻画を描く文化があり、関連が考えられているが、今のところ良くわかっていない。縄文時代前期初頭（約 6000 年前）には海水面が現在より 2～3m 高く、現在フゴッペ洞窟のある丸山は岬になっており、波による浸食によって洞窟が出来た。

そして その中に小さな石や砂が堆積し、人が出入りの出来る環境になりました。

続縄文時代の人々によって、この洞窟の岩面にさまざまな恵が描かれたと考えられている。

人が仮装したようなものから舟、魚、海獣、4 本足の動物のようなものがあります。角や翼で仮装した人々が多くシャーマンを表したものと考えられ、何らかの宗教的儀礼の場であったのではないかと考えられています。



早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

6. 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

- 5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ 2005.4.24.
 1. 雪の狩勝峠から十勝平野へ
 2. 釧路市丹頂鶴自然公園
 3. 丹頂が群れ舞う「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」
- 5.2. 一足早い早春の駒ヶ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」 2005.4.24.
 5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて 2005.4.24.
 5.4. 「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて 2005.4.24.
 5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて 2005.4.25.
 5.6. 「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ 2005.4.26.& 27.
 ●千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて
 ●小樽恋路・余市のストーンサークルを訪ねて
 ●ブゴツベ洞窟 岩刻画

【 完 】